

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第573号（平成27年4月1日発行）

【今週号の主な内容】

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

事務局からのお知らせはございませんが、ご所属や連絡先の変更、ご担当者様の変更等がございましたら事務局までご一報願います。

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. リサイクルポートの動き：⑤酒田港「石炭灰の移出等」
2. 循環産業の戦略的国際展開等に5億円
3. 国土交通分野における今後の地球温暖化対策まとめ

=====

1. リサイクルポートの動き：⑤酒田港「石炭灰の移出等」

山形県酒田港では年間約50万tのリサイクル材を取り扱っている（25年実績）。このうち約6割（30万t）は石炭灰の移出で、残りは廃プラや古紙の輸出など。

酒田港では酒田共同火力発電から発生する石炭灰をセメント工場向けにリサイクル材として供給しており、主な移出先は姫川港（新潟県糸魚川市、明星セメント）、上磯港（北海道北斗市、太平洋セメント上磯工場）など。主要リサイクル材の石炭灰は、火力発電所の定期点検による休止により、その発生量は年により異なるものの、移出量は概ね30万t規模で推移している。

また酒田港背後にはリサイクル企業も数多く立地している。酒田港リサイクル産業センターが核になって北九州港、境港、姫川港、八戸港、室蘭港などのリサイクルポートと連携し、バルク船を用いた日本海側静脈物流の経済的輸送に係る社会実験なども行っている。

【港湾空港タイムス】

.....

2. 循環産業の戦略的国際展開等に5億円

環境省廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室は、平成27年度の「わが国循環産業の戦略的国際展開・育成事業」として5億円を計上している。

途上国では経済成長に伴う産業廃棄物問題が大きな課題になっている。一方、わが国ではこれまでに循環産業を発展させて来ており、先進的な技術・システムを有している。環境省ではこれまで実施して来た循環産業の国際展開事業をさらに前進させるため、27年度は国内リサイクル産業と連携し国際循環資源にも資する事業（世界都市鉱山）の掘り起こしも繋がる支援を実施して行く。

【港湾空港タイムス】

.....

3. 国土交通分野における今後の地球温暖化対策まとめ

国土交通省は3月23日、「社会資本整備審議会環境部会・交通政策審議会交通体系分科会環境部会」の第26回合同会議を開催し、国土交通分野における今後の地球温暖化対策等について議論した。温室効果ガスの排出削減等に向けた対策だけでなく、新しい気候条件に対応した適応策が重要であるとし、今年夏までに「国交省適応計画（仮称）」を策定することを確認した。同計画は政府が策定する「適応計画」に反映する。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

堀江 良彰 東京都

加賀谷 聡一 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####